

# 令和4年度業務実績にかかる小項目評価結果（案） 項目別整理表

資料 3

原案では、①具体的な実績をあげて、高く評価できると記述されているほか、新たな取組が記述されており、かつ、②今後について大きな改善点が求められていない項目を選定しています。

## < I - 第 1 教育に関する項目 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
21101	適切な選抜の実施(学部)	-	-	<p>適切な選抜の実施は、人口減少に向かう中、優秀な学生を確保するのに重要であり、コロナ禍で制限のある現状において、入試説明会を工夫して行い、一定の評価を得ていること、令和5年度入学者選抜試験を実施し、入学定員を満了す合計101名の入学生を確保したことは評価できる。</p> <p>地域の事情等をふまえた特徴ある入学者選抜(「地域推薦型選抜」「指定校推薦型選抜」「東紀州地域指定校推薦型選抜」「一般選抜前期日程地域枠)」の実施は地域に根差す公立大学として重要な試みである。とりわけ、「東紀州地域特別選抜」と令和6年度から実施予定の「多言語多文化選抜」はとてもユニークな選抜方法であり、期待される。</p> <p>ただし、導入を成功させるためには事前に幅広くデータを取り、入学方法だけではなく、入学生を入れた場合のカリキュラムから学生への対応まで、また受入側の体制まで予測できる範囲で慎重にシミュレーションするなど、緻密さが必要である。</p>	○	○	
21102	高大接続の拡大(学部)	-	-	<p>高大接続を進めていくには、進路指導教員との十分な意見交換が非常に重要であり、コロナ禍であってもオンラインなどを駆使して高校の教員との丁寧な連携が必要である。「一日みかん大生」は貴学ならではのユニークな取り組みであり、定員枠を大幅に上回る参加者数、参加者の満足度の高さからみてとても優れた試みだと評価できる。「出前授業」についても、満足度も高く高大接続事業として重要な役割を果たしていると評価できる。これらを踏まえ、今年度の入学生の中でこの種の事業(オープンキャンパスや説明会も含む)に参加した学生がどの程度おり、受験に影響を与えたのか等の追跡調査をすると有効な情報が得られるように考えられる。</p> <p>また、入学準備教育の丁寧な実施は入学後の学習のスタートをスムーズにし、大学生活に慣れるための良い取り組みである。</p>	○	○	

21103	適切な選抜の実施(研究科)	—	—	<p>様々な入試方法やコースの見直し、新たなコースの設置など工夫していること、さらに修了後、学んだことを生かしてそれぞれの場で活躍していることは評価できる。今後は学部入学時から自分のキャリアデザインをどのように描いていくかなど、さらなるキャリアアップにむけた根本的な取り組みなどを再度見直していただき、大学院での学習に早い時期から興味、関心を持つような働きかけを考えていただきたい。さらに職場の理解、上司の理解にむけた取り組みも積極的に行っていただきたい。</p> <p>研究科の大学院生確保は難しい問題であるが、学内推薦なし、臨地教育者コースの受験者なし、CNSコース(1名)という入試状況については問題として把握し、早期にその原因分析が必要である。</p>		○	
21104	教育課程・教育方法・内容の充実(学部)	—	—	<p>貴学の教育の特徴の一つである総合科目群の「三重を知ろう」はこれまでよりも更に充実し、各学年にわたり縦断的に実施するカリキュラム内容となり、大学の特徴が明確になっている点は評価できる。</p> <p>コロナ禍において世界に目を向けるような取り組みである国際交流活動を工夫しながら、多くのイベントを計画し、提供していることは評価できる。ただ、「看護×国際交流」プログラムにおいて計3回のイベントの実施だけでは、大学の国際交流活動として物足りなく、学生の参加が少ない点も改善の余地がある。</p>		○	
21105	公正な成績評価の実施(学部)	—	—	<p>ルーブリック評価を数年実施しており、徐々に増えつつあるということは、ルーブリック評価表によって公正な評価ができることと教員、学生共に理解されていると考えられる。引き続き公正な成績評価実施にむけた取り組みを加速していただきたい。</p> <p>今後は、ルーブリック評価を用いた成果と課題について定期的に検証をお願いしたい。</p>		○	
21106	教育課程・教育方法・内容の充実(研究科)	—	—	<p>社会人院生に対しての遠隔授業(オンライン授業)は、大学院生からも高評価を受けているように、社会人院生に合った授業方法のひとつであり、対面授業を合わせたその積極的活用は評価できる。</p> <p>今後はコロナが落ち着いてきた時期の授業方法として、社会人院生、またそれ以外の大学院生の両者にとって満足いく方法を丁寧に慎重に考えていただきたい。</p>		○	
21107	公正な成績評価の実施(研究科)	—	—	<p>学位論文審査及び最終試験に臨んだ、働きながら学ぶ大学院生全員が修士課程を修了した点は高く評価できる。</p> <p>また大学院の一定のレベルを担保するために、これまで評価に関する様々な工夫や試みを行ってきている。ぜひ貴学にあう方法を引き続き検討し、実施いただきたい。</p>	○	○	

21201	授業の点検・評価	—	—	<p>令和4年度は「授業改善等報告書」の新たな取り組みとして授業の振り返りの方法を追加して行っている。常実施した結果をもとに検討を重ねて各自が振り返り、自己点検していけるような方法に修正を重ねていくことは前向きな姿勢と評価できる。授業の点検・評価はマンネリ化しやすいところであるが、教育の質担保のために引き続き内容の工夫をしながら前向きに進めていただきたい。</p> <p>また、教員相互の授業点検評価は有用であるが、著しく教員の負担にならないようにしていただきたい。</p>		○	
21202	研修会等の開催	—	—	<p>研修会等の開催について年度計画にしたがって進められており、他県の病院の看護部長を招聘し、三重県以外の事例を参考にすることは有意義と思われる。</p> <p>また研修会開催方法は「研究・教育コロキウム」「FD講演会」「FD/SD合同研修会」の3通りであるが、開催回数は、合わせて年間4回である。一つ一つの研修会の内容のみならず全体の開催回数、内容の評価も併せて行うと全体としての研修会の持ち方の評価、今後の方向性も明確になると考えられる。</p>		○	
21301	学習支援	—	—	<p>コロナ禍で不安を感じやすい時期に学生相談制度やチューター制度が周知されており、きめ細かな対応を行われ、学生の満足度も高く、学習支援の制度がうまく展開されていると評価できる。しかし病気休暇等取得などの要因はあるものの、チューター教員の変更は、できる限り年度途中は避けるような工夫が必要と考えられる。</p> <p>看護師・保健師・助産師国家試験の合格率は全国と比較して高い水準であるものの、100%合格が目標値であるため、不合格者が1名であっても丁寧に要因分析を実施して早期の対策をしていただきたい。</p>		○	
21302	大社接続の支援	—	—	<p>「就職説明会」、「ようこそ先輩」については、参加者の評価も高く、卒業後の進路決定に役立っているものと評価できる。これらは学生が県内病院および行政施設の職員、卒業生と直接対話でき、県内に看護師・助産師・保健師として就職しようとする学生のモチベーションを高める試みだと考えられる。</p> <p>「卒業生支援プロジェクト」も、学生にとって看護師、助産師、保健師の道に進む身近なキャリアモデルとなり有効な事業だと評価できる。「卒業生のきずなプロジェクト」については、県内就職率を上げるためにも、離職防止のためにも重要な取り組みと考える。今後は、対面での開催により、卒業生が看護職として職責を継続的に果たすための支援を充実させるとともに、卒業生のニーズに対応した支援を実施していただきたい。</p>	○	○	
21303	就職支援	—	—	<p>県内就職率は数値目標を達成したものの昨年度よりも低下している。入学時にアンケートを実施し、入学時の県外就職志望者が一定数存在することが判明したものの、県内医療機関の情報提供の充実を図り、志望者の減少の原因分析結果を明文化するなどして、引き続き、県内就職率の向上につながる活動をお願いしたい。</p> <p>入学後三重県の良さをアピールして他県の出身者でも県内に就職したくなるような施策も考えていただきたい。また、県内看護職者を確保するという観点では、県内に就職した卒業生への支援充実により、離職を防止する積極的な取り組みも有効であると考えられる。</p>		○	

計 12項目

4項目

12項目

0項目

< I - 第2 研究に関する項目 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
22101	研究と地域課題との循環の促進	—	—	三重県受託事業や産学連携の成果から、認知症者の個別性と看護の関連、地域に潜む問題の可視化と対応という地域課題が抽出できた点は評価される。今後この課題に対して地域と連携してどのようにさらなる研究や事業を展開していくか、注目される。 また、市町や病院との連携協力協定締結は重要な施策と考えられるので、積極的に推進していただきたい。		○	
22102	競争的研究資金の獲得	—	—	令和4年度科学研究費補助金の新規採択率(33.3%)が全国及び公立大学の平均を上回った点、若手研究の採択率が高い点が高く評価できる。この状況をさらに高められるよう継続していただきたい。 また、競争的研究資金獲得に向けた取り組みについては相互支援体制を活用しながら大学全体で取り組んでいることは評価できる。できる限り全教員の研究資金獲得が進むとさらに望ましい。	○	○	
22103	研究成果の公表と還元	—	—	教員の研究活動等は大学のホームページで公表されている。貴学で特筆すべき活動は「講師派遣による研究活動の成果の公表と還元」である。多くの地域関連の事業(25件)や出前講座(49件)が実施され、満足率も高く、地域への貢献は高く評価される。今後も研究成果の公表と還元を進めていただきたい。 一方、原著がないのは紀要として物足りない。電子化を図り発行までの時間短縮等図るのは一つの方法と考えられるが、かたや貴学における教員各自の中での紀要の位置づけ、意識、あり方など話し合ってみることも必要ではないか。		○	
22201	研究活動への支援	—	—	教員の専門分野における独創的・先駆的な研究支援体制を整備し、若手研究者に対する支援等を積極的に行うと年度計画には記されているが、今年度は研究支援に関するアンケートの実施と研究支援の実施(4件:研究課題の抽出、研究計画書の作成、研究データの分析方法、論文作成)であった。この支援で独創的・先駆的な研究支援を推進することになりうるのか、再度検討を要す。 研究倫理に関わっては、日本学術会議や国の研究機関に準じてガイドラインや規定を整備し、研究環境の整備や不正防止を推進している。 看護学という研究領域特性を考慮した2つの研究倫理審査方法(本審査、迅速審査)を運用して進めている点は貴学固有の工夫として評価できる。		○	

計 4項目

1項目

4項目

0項目

< II 社会・地域貢献に関する取組 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
31101	看護職者の能力向上	Ⅲ	Ⅲ	三重県受託事業の4事業を継続し、1事業を新規に実施している。三重県受託事業については、研修への満足度も高く、県内の看護職者の質向上につながっており、年度計画を順調に実施している。		○	
31102	卒業生へのキャリア支援	Ⅲ	Ⅲ	令和3年1月に実施した卒業生調査から、①キャリアの継続やキャリアアップに結び付く研修等、②博士号取得への支援、③離職中の卒業生への支援体制の構築という課題を導出した。特に、ライフイベント発生時のキャリア継続支援は、県内の医療機関等とも連携した対応が必要と考えられる。 今後は様々な工夫により出席者を増やす努力や活動を具体的に計画実施していただきたい。		○	
32101	県民のヘルスリテラシーの向上	Ⅳ	Ⅳ	教員提案事業25件、みかん大出前講座49件(うちオンライン4件)延べ1,443名参加、満足度平均95.5%、みかん大リクエスト講座43件(うちオンライン7件)、延べ1,157名参加、満足度100%という「教員各自の専門分野を活かした講師派遣、教員提案事業」については、県民のヘルスリテラシー向上が図られており、年度計画を上回って実施していると考えられる。		○	
33101	教育研究活動に基づく社会・地域貢献	Ⅳ	Ⅳ	地域貢献は県立大学として重要な役割の一つであり、コロナ禍であっても教員は各自の専門性を活かして、県内の保健・医療・福祉の課題解決や行政機関の政策立案に寄与していることから年度計画を上回って実施していると考えられる。今後も公立大学の教員の使命でもある地域の課題解決のため、行政機関、医療機関、福祉機関等と積極的に連携を深めて対応していただきたい。さらに評価をフィードバックして次に活かす行動に積極的に繋げていただきたい。		○	
計	4項目				0項目	4項目	0項目

<Ⅲ 大学運営に係る環境整備に関する取組>

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
41101	学生の生活支援	Ⅲ	Ⅲ	<p>「本学の生活支援制度」について「満足している」「ほぼ満足している」と回答した学生は96.3%で、数値目標を達成した点は高く評価できる。</p> <p>学内外でのボランティア活動も積極的に実施している。</p> <p>LINKtoposにも参加しており、全国の「公立大学学生ネットワーク」活動を学内でどのように広めていくかが今後の課題である。</p> <p>コロナ禍で顕在化した経済的に困窮する学生支援を積極的に実施している点は評価できる。とりわけ、大学独自の上乗せ制度により、10名(前期5名、後期5名)の減免に対応、「みかん大進学支援給付金」による20万円支給(5名)、学部生全員への2千円支援は手厚い支援だと評価できる。以上のように学生が勉学に取り組めるような様々な奨学金制度を準備し、学生に寄り添った支援ができていると評価できる。次年度に向け予算との関係でどのような支援が現実的に可能か検討して困窮学生支援を進めていただきたい。</p>	○	○	
41102	教職員の健康管理	Ⅲ	Ⅲ	<p>教職員の健康管理については、産業医による面接指導(21名)や衛生委員会による情報提供を実施しており、課題を把握し、改善に向けた取り組みが行われている。しかしながら、職員満足度アンケート結果が昨年度より低下しているほか、「教員の配置状況」、「連続休暇の取得」、「教員不足」、「ライフワークバランス」等による満足度の低下状況は改善を必要とすることから、具体的な改善策を迅速に検討していく必要がある。</p>		○	
42101	教育環境・IT環境の整備	Ⅲ	Ⅲ	<p>コロナ禍を含め、今日の教育環境としてIT環境の充実が極めて重要な課題である。</p> <p>IT環境を含む設備等について適切に導入、維持管理が行われており、その効果も認められるが、今後、施設の老朽化やIT環境への積極的投資はさらに重要となり、教育研究現場や事務局ではますますIT環境への計画的投資を見越していく必要がある。今困っていることに着手するだけでなく、先を見越しての中長期的計画を今から立てていくにあたっての現状分析をきちんと素早く行う時期かと思われる。長期的な計画が見える準備をしていただきたい。</p>		○	
42102	図書館運営の充実	Ⅲ	Ⅲ	<p>コロナ禍において一部ではあるが図書館利用サービスの拡大に努力している。大学の役割として図書館の充実は学生のみならず地域住民にとっても重要である。資金の問題もあるが、ぜひ図書館機能の充実には力を入れていただきたい。また電子書籍についても計画的な導入を検討いただきたい。そのためには図書予算の精査を急ぎ図書館運営の充実を期待する。</p> <p>附属看護博物館は他大学にはほとんどみられないものである。今後、附属博物館の魅力ある事業を計画し、積極的にアピールすべきと考えられる。</p>		○	

42103	環境等への配慮	Ⅲ	Ⅲ	電気消費量削減、ゴミ分別、紙使用量削減など、環境に配慮した取り組みが行われている。特に、グリーン通信へ、電気使用による二酸化炭素排出量を掲載するなど、学生・教職員への意識づくりなどに努力し、業務を遂行したと考えられる。 年度計画にあるユニバーサルデザインに配慮した実施状況の報告も必要であろう。		○	
43101	大規模災害時等への対応	Ⅲ	Ⅲ	大規模災害時への対応として、「安否確認システム」の操作訓練(2回)、防災訓練、三重県看護系大学防災協議会(災害発生時の大学間の相互支援)の実施は年度計画に沿った取り組みであったと思われる。大雪の際の学生・教職員への情報伝達・情報共有がうまくいった点は緊急時のシミュレーションとして評価できる。 災害が多くなっている現在、引き続き計画的対応していくことが望ましいことから、年度計画を順調に実施していると考えられる。		○	
43102	危機管理への対応	Ⅳ	Ⅲ	新型コロナウイルス感染症に対しては、リスク管理委員会を随時開催し、迅速かつ的確な対応が行われていると評価する。しかし、リスクはコロナ以外の多岐にわたっており、コロナ以外の危機管理についても充実させていきたい。 また、県医療保健部との連絡会議を設置しているものの、取り立てて優れた取り組みとまではいえないことから、年度計画を上回って実施していると言えない。		○	
44101	人権尊重とハラスメント防止	Ⅲ	Ⅲ	ハラスメント防止に関する研修会、ハラスメント調整員のための研修会等により、ハラスメント防止の取り組みが行われている。 しかし、1年生の研修会への参加率が12%で参加率が低く、研修会の重要性・必要性の周知が必要である。 また、ハラスメント相談窓口および調整員からの報告は0件であったと言うものの、ハラスメントに関わる学内外への対応を含む全学の組織体制の点検が必要である。		○	
計	8項目				1項目	8項目	0項目

<IV 的確な業務運営の実施及び業務改善に関する取組>

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
51101	組織体制	Ⅲ	Ⅲ	<p>理事長のリーダーシップのもとに、内部統制がとれた組織運営ができる体制(理事会・経営審議会・教育経営審議会・教授会他各種委員会)で大学運営をし、年度計画に沿って取り組んでいる(大学一般のルーティンワーク)。</p> <p>ただ、「組織体制ワーキングにおける議論をとおして、令和5年度に「大学戦略会議」を設置し、本学の将来構想や直面する喫緊の課題への対応等を検討する」と記されているが、取り組み内容として、「大学戦略会議」の設置を決めた組織体制ワーキングにおける議論の内容を明確にしておく必要がある。</p>		○	
52101	教職員の充足	Ⅲ	Ⅲ	<p>教員の充足に関わって、努力されている点は認められる。ただ公募による採用2名(6件公募-5名応募)であった。看護系の採用人事が多くの大学においても難しい状況にあることは理解しつつも、公募件数に対して応募と採用数が少ないように思われる。今後、大学が教育、研究、社会・地域貢献の機能を最大限発揮できるよう、優れた教員を採用するための方策を練る必要があると考えられる。</p> <p>連携協力協定病院2病院との人事交流は優れた取り組みだと評価できる。</p>		○	
52201	教員の育成と働き方	Ⅲ	Ⅲ	<p>大学が、教育、研究、社会・地域貢献の機能を最大限発揮できるよう、引き続き、教員の人材育成に努めていただきたい。また学内の制度を活用した大学院博士課程への進学の積極的推進については、看護大学ならではの取り組みである。</p>		○	
52202	事務職員の育成と働き方	Ⅲ	Ⅲ	<p>事務職員の研修、面談等の能力向上支援の取り組みがなされている。</p> <p>ただ、年度計画にある「中長期にわたり法人運営を支える固有職員については、体系的かつ着実に育成していきます」という課題に対して、固有職員の人事計画、育成計画の具体化が望まれる。高等教育機関としての大学の事務を専門的に取り回していく人材はきわめて重要である。</p> <p>また、法人固有職員は短期間での交代にならないように、できる限り継続して勤務してもらい、スペシャリストとしての研修体制もしっかりと作って、計画的に行っていただきたい。</p> <p>IT活用や業務の効率化などにより、働き方改革や生産性向上への取り組み強化につなげていただきたい。</p>		○	
計	4項目				0項目	4項目	0項目



< V 財務内容の改善に関する取組 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
61101	自己収入の確保	Ⅲ	Ⅲ	公立大学(とりわけ単科大)にとって自己収入の確保は非常に難しいものである。その中で「施設使用料(自動販売機設置場所の貸付料等)」「MCNレポート(広報紙)広告掲載料」「認定看護師教育課程「感染管理」に係る入学検定料・入学金(令和4年度開講)」「地域交流センター事業収入(受託事業収入は除く)」「修学支援基金寄付金」の自己収入を得ている点は評価できる。	○	○	
61102	知的財産の適切な保護と活用	Ⅲ	Ⅲ	知的財産の適切な保護と活用に関しては、知的財産委員会を設置し、特許や知的財産に関わる啓蒙活動、管理について適切に実施していると考えられる。また、特許の出願については評価できるものの、実用化(事業化の実現)にまでは至っていない。		○	
62101	経費の抑制	Ⅲ	Ⅲ	経費削減に関しては、教職員の意識改革と省エネに努めた点は評価される。財政難と物価高の折、学生の教育活動に支障が出ないような経費削減の具体策の作成と教員間の共有が必要と考えられる。		○	
63101	資産の適正管理	Ⅲ	Ⅲ	継続的に適切な施設管理をしていると思われる。大学施設管理については、まずは学生、教職員の安全を第一に考えて、中長期的な運用計画と緊急時の運用の両面から適切な維持管理をしていく必要がある。		○	

計 4項目

1項目

4項目

0項目

< VI 大学教育の質保証及び情報の公開・発信に関する取組 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
71101	自己点検・評価及び外部評価	Ⅲ	Ⅲ	学内の自己点検評価委員会での検証・確認と学外の法人評価委員会の評価を受け改善点の点検と次年度の計画を作成したという意味では滞りなく年度計画は遂行されていると評価できる。		○	
71102	内部監査の推進	Ⅲ	Ⅲ	中長期監査計画に基づき、内部監査が行われている。担当課等における改善状況の確認も行われている。		○	

72101	情報公開・情報 発信の推進	Ⅲ	Ⅲ	「法人概要」、「財務諸表」に関しては大学ホームページにて公表されている。また、大学広 報紙のデザイン刷新、ホームページへの掲載、入試情報、入試広報動画などWEBでの発信 に努めていると評価できる。		○	
計	3項目				0項目	3項目	0項目